

伊勢・三河湾貧酸素情報 (H28-5号)

平成28年7月5日
愛知県水産試験場 漁場環境研究部

平成28年7月1日に伊勢湾において貧酸素水塊の調査を実施しましたが、その結果は以下のとおりです。

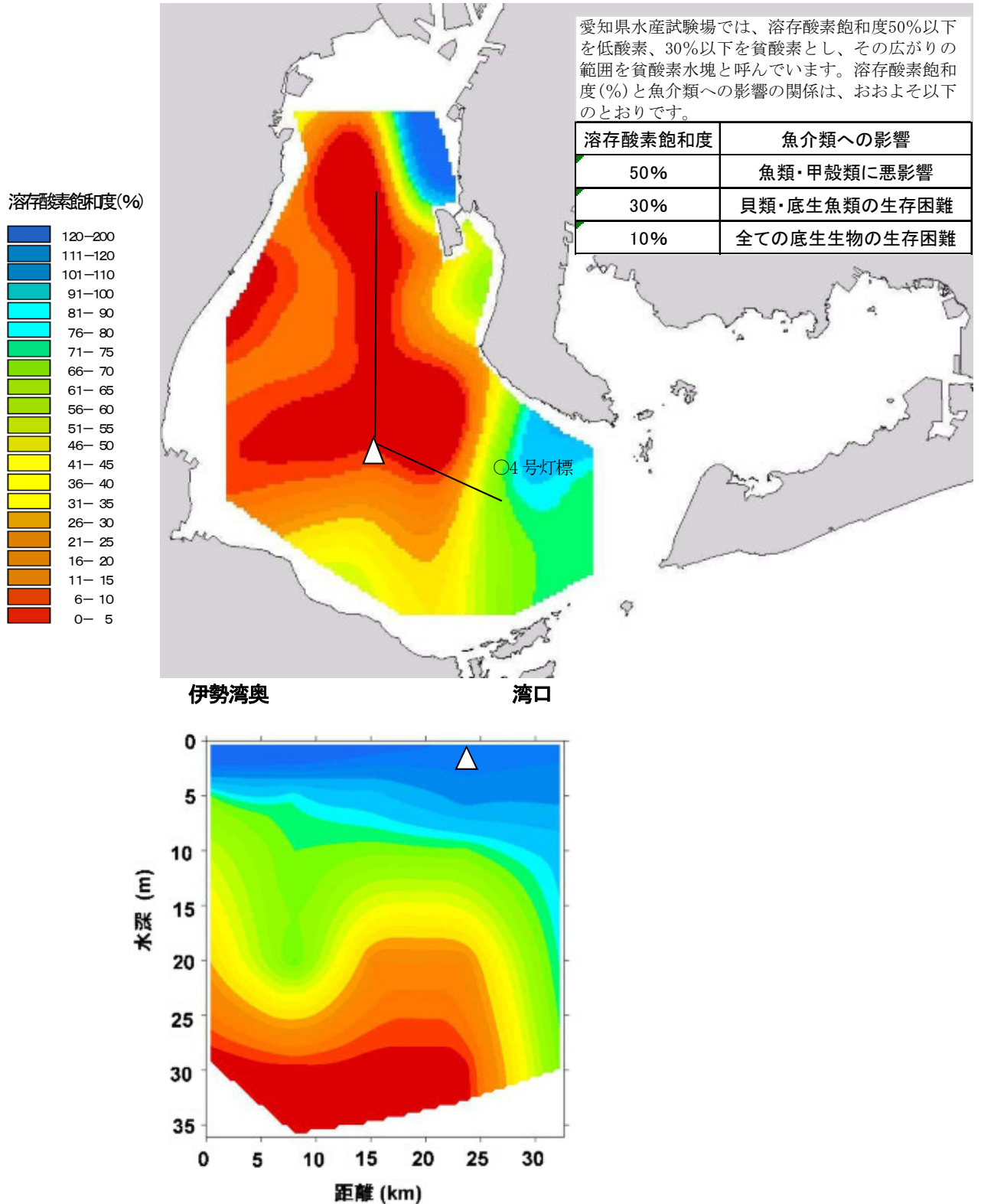


図1 伊勢湾(7月1日)底層の溶存酸素飽和度の分布(上図)及び上図直線部分の鉛直分布(下図)
(三重県「あさま」、愛知県「へいわ」調査)

伊勢湾

7月1日の調査結果を図1に示しました。前回調査(6月22～24日)に比べて貧酸素化が進行しており、溶存酸素飽和度が10%以下の海域が拡大していましたが、湾口部では、外海水の流入により貧酸素水塊が湾中央寄りへ移動していました(図1)。国交省中部地方整備局が所管している伊勢湾の水質モニタリングシステムの第4号灯標(内海沖)での観測データをみると、6月23日まで貧酸素水塊が観測されていたため、それ以降に内海沖まで外海水が流入したものと考えられます(図3)。

今後は、表層の水温上昇と低塩分化により成層化が進み、海水の上下混合が起きにくい状況となるため、貧酸素水塊の規模は維持されると思われます。

	水温(°C)		塩分	
表層	23.0	～ 26.0	15.3	～ 31.4
底層	16.3	～ 23.0	24.7	～ 34.0

図2 調査時の水温、塩分

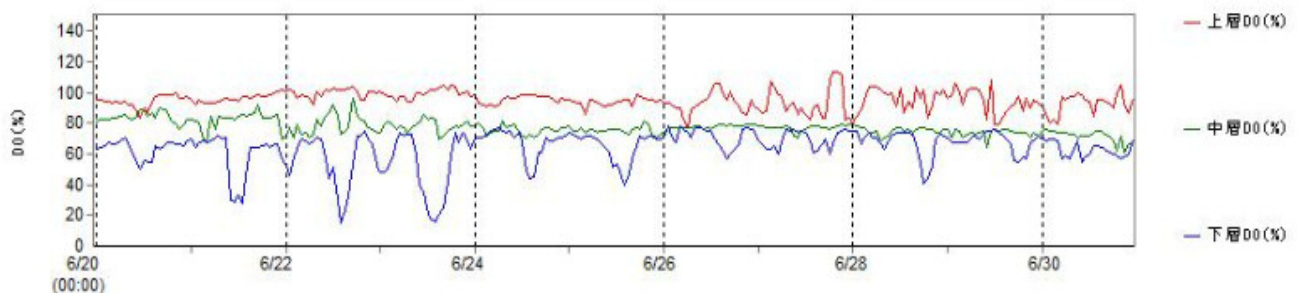


図3 伊勢湾モニタリングシステムの第4号灯標の溶存酸素飽和度の経時変化(中部地方整備局HPより)

参考

前回調査時の底層の溶存酸素状況

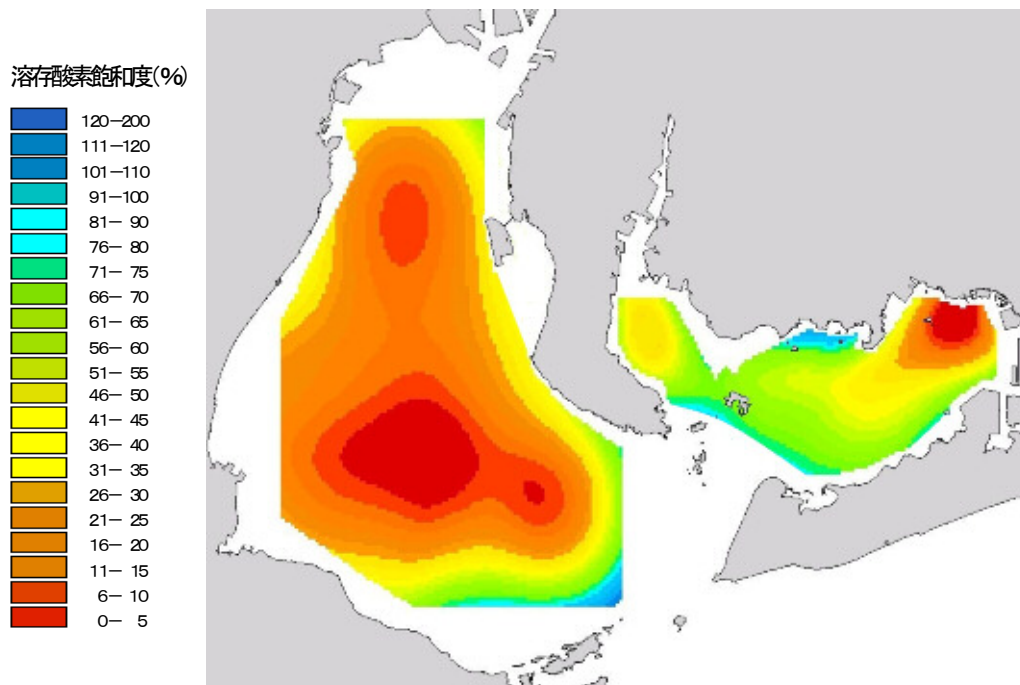


図4 平成28年6月22～24日(伊勢湾)、6月23日(三河湾)